

企業活動の進め方Ⅱ

産業と環境の両立

日時：平成27年10月31日（土） 10:00～15:00

講師：速水 亨（速水林業 代表）

概況



科目名：企業活動の進め方Ⅱ

日本林業の展望「今こそ森林資源を生かす好機」

講師：速水林業代表 速水 亨氏

○第1時限 10時から12時まで

・「今の林業の現状を理解してもらいたい」という視点から、まず木材を取り巻く社会環境とそれに対する自らの行動、具体的には建築学会への挑戦の話から講義が始められた。

・また、木材はなぜ環境資材かという理由を単にCO₂の貯蔵庫という説明だけではなく、樹木が行う光合成から社会的循環と生態的循環という視点と、さらには木材の可能性(始まった都市の木造化、新時代の木造技術、注目が集まる木材利用)に至るまで自らの蘊蓄を踏まえて語られた。

○第2時限 13時から15時

・午後の講義は「世界の林業と日本の森林」という視点から始められた。

・初めに、日本書紀(神代上・第8段)にある「スサノオの胸の毛を抜いて植えるとヒノキが生え」等を紹介し、日本では古来より用途を示し、樹種を指定して植林が行われてきた歴史を紹介された。さらに、日本の森林面積の推移と森林蓄積量の推移、明治時代以降行われてきた植林の歴史、さらには木を上手く使うことの重要性を述べられた。

・一方で、世界で行われているブラジルのユーカリ林や英国のヤナギで行われている短伐期施業の紹介は、興味深いものであった。

・そうした紹介を踏まえて、自らが実践している速水林業の山造りの考え方の中に、古典ドイツ林学の森林美学と恒続林思想が脈打っていることに驚きを禁じ得なかった。

『森林美学とは功利(木材生産等)を追求しつつ「技術合理の森林は最も美しい」「美しい森林は最も利用価値が高い」としたもの。ここでいう利用価値とは、環境の保全も含まれ多様な森林の役割を意味し、経済的利益と美の調和を主張した(筒井 2009)もの。』